

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2014 10 - 11 vol. 28

絵本原画展 永田 萌

特集 旅の絵本



ながた もえ
水田 萌



永田 萌 (ながた もえ) プロフィール

イラストレーター、絵本作家

ほぼ40年、「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩表現で、花と妖精をテーマにした夢あふれる作品を描き続ける。近年は代名詞ともいえるカラーインクの他に、染料やアクリル作品も手がけ、画廊での個展も含め新しい世界を開く可能性にも積極的に取り組む。

1987年に『花待月(はなまちづき)』(偕成社)でボローニャ国際児童図書展青少年部門グラフィック賞を受賞。絵本、画集、エッセイなど出版物は150作を超え、今年は5作の制作を予定している。また定期的な国内巡回展のほかに、デンマーク、台湾、フランスでも作品展を行ってきた。自身のマネジメントを業務とする株式会社妖精村(京都市中京区)を拠点に活動中。併設するギャラリー妖精村では企画展やオリジナル商品の製作を行っている。

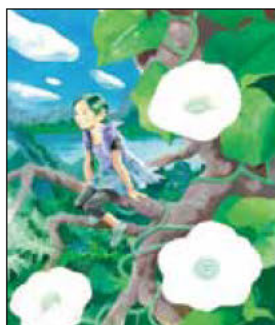
ホームページ <http://www.yohseimura.co.jp>

フェイスブック <https://www.facebook.com/yohseimura>

透明感のある美しい色彩で
花と妖精を描き続ける永田 萌さん。
子どもだけでなく大人にも寄り添える
絵本をつくりたい。

絵本原画展開催

平成26年10月1日(水)～平成26年11月27日(木)



原画展示絵本

『「ク」の森』
(アンジェリッセン/文
QUINTESENCE)
度重なる困難にもくじけず頑張る
女の子の冒険サクセスストーリー。

ギャラリーでは、この秋、韓国で出版される

永田 萌先生の最新刊絵本『ココの森』をご紹介します。

永田 萌先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

もともとは意匠科出身で、大学卒業後はデザイン事務所や製菓会社の企画室などで仕事をしていました。絵を依頼する立場にいたわけです。発注の説明をくりかえすうちに、自分で描いた方が早いし、イメージどおりのものができるのでは？と思い始め、結局独立しました。

「これが永田萌の絵です」と知ってほしくて自費出版した『もえと妖精たち』（世界文化社）が最初の絵本です。幸いにも多くの人の目にとまり仕事も増えて、私らしい絵を描き続けることができました。

画材は何を使っていますか？

絵描きになつてからずっとカラーインクです。ただ、褪色しやすいという弱点を克服するため、近年は絹に染料で描く絹絵やアクリル描画にも取り組んでいます。この時期での別の画材への挑戦は冒険ですね、とよく言われますが、ワクワクドキドキする楽しさを満喫しています。

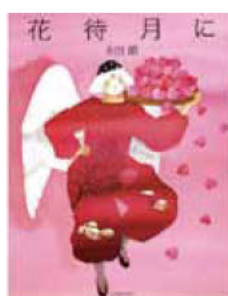
今回、絵本原画展を行う新刊絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

韓国の童話作家さんから直接依頼を受けて挿画を描きました。度重なる困難にもくじけない前向きな女の子が主人公のファンタ

ジーで、私好み。作家ご本人も、とても明るくかわいらしい、でも芯の強さを感じる女性です。お互いを訪ねあつたりして、すっかり友だちになりました。モデルは千葉県に住む私の知人のお嬢さん。イメージに合った衣装を用意して、お母さんに彼女の長い髪をセットしてもらいました。撮影も楽しかったですよ。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

初めての『もえと妖精たち』やボローニャの賞をいただいた『花待月に』（偕成社）、嵐山でモデルさんを使って大がかりに着物姿の撮影をした『たまゆら』（サンリオ）など、初期の絵本は苦勞した分、思い出も多いですね。立原えりかさんとの『うみのいろのバケツ』を始めとする四季シリーズ（講談社）も、30年以上、版を重ねていて心に残る絵本です。



『花待月に』
（偕成社）



『うみのいろのバケツ』
文／立原えりか（講談社）

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

最近「おとなのための絵本講座」を始めました。人生や家族の歴史など、面と向かつては話しづらいけれど、絵本を通して次世代に伝えたいと思っている大人が、とても多いのです。参加者の皆さんは、徹夜も厭わないほど熱心に取り組まれます。今はそんな大人たちが、子や孫にメッセージを託すお手伝いをすることに興味を持っています。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

心が迷った時や弱気になった時に手にしたくなる、子どもだけでなく大人にも寄り添える絵本です。

好きな言葉を教えてください。

「自分を尽くす」です。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

絵描きになつてから来年で40年になります。が、今でも描きたい気持ちが続くことはありません。描き続けられるのも、私の絵を待つくださる方々がいればこそ。折にふれて作品展会場などで、笑顔で声を掛けていただくと、「よし、またいい絵を描こう」という意欲が湧いてきます。ほんとにこれまでもありがとうございます。そしてこれからも見守ってくださいね。

永田 萌先生、ありがとうございます！

永田 萌先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50
射水市大島絵本館
永田 萌サイン本プレゼント係
締め切り 平成26年11月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『クリコさんと笑わないクマ』
（妖精村）





西淵 史英
射水市大島絵本館 指導員

特集 / 旅の絵本

人生は旅のよう

幼い頃、母がいろいろな絵本を読んでもくれた。英米の伝承童謡を訳した『マザー・グースのうた』は思い出の一冊。頭の中に自作のメロディが流れはじめると文字が動き出し、挿絵の人や動物たちは踊っているように見えた。そのうちに建物や樹木が現れ、詩の続きのストーリーがアニメーションのように生まれてきた。私はこの世界を自由に空想して、楽しんでいった。絵本が放つ異国の香りに日本とは違う国があることを知り、海外への興味をもつきっかけにもなった。

*

小学生のある時、地元で山下清の展覧会が開催された。爪ほどの小さな紙の破片が丁寧に貼り合わされた、精緻を極めた細工に一瞬で心を奪われた。近くで見ると細かさに驚き、離れてみるとたくさんのピースが枠の中で美しくひとつにまとまる。山下氏の優しい人柄がにじみ出るような色使いに心が落ち着いていた。あまりにずっと眺めていたので、母が画集とポストカードを買ってくれた。特に心に残っていたのが富士、長岡の花火、ロンドンのタワーブリッジなどの風景。いつか実物を見てみたいと子供心に憧れを抱いた。大人になり、初めて富士を目にした時、ロンドンへ行った時の感動は今でも忘れられない。心の中のちぎりに絵に目の前の景色が重なって、おぼろ

げな記憶が息を吹き返したようだった。

*

旅は今まで見たことのない景色が次々現れる。太陽のまぶしさ、空の青さ、風の匂いを感じ、時には普段そうだったことに目を向ける事すら忘れていた自分に気づくこともある。産地の食べ物を味わい、まちの時間の流れに委ねてみる。ふらりと入った店で常連客やマスターとの会話を楽しみ、タクシーの運転手と意気投合して目的地に着いてもしばらく話し込み、新しい出会いに刺激を受ける。再会を約束して笑顔で手を振り、無言の握手から相手の気持ちが伝わって目頭が熱くなり、別れもまた気持ちが揺さぶられるものだ。一期一会の出会いが旅の醍醐味かもしれない。

*

人はいろいろな経験をして成長していく。自然や音楽に心を動かされ、人と関わる中で喜びや悲しみを知り、壁にぶつかって悩み解決しようともがく。まるで人生は旅のようだなと思う。大人になると旅の方向を決めるのは自分自身。幼少期からの様々な体験や学びの中で自然と身についていく考える力や創造する心が、その助けとなる。子どもたちには絵本や自然、人との関わりなどから感性を養い心を育て、自分らしい旅を夢見て歩んでほしいと願う。

私のおすすめ絵本

『オセアノ号、海へ!』

アヌック・ボワロベールとレイ・リゴー／作
松田 素子／訳
アノニマ・スタジオ

海の上と底が同時に出てくる
しかけ絵本。
さあ、オセアノ号と海に出よう!



『旅するベッド』

ジョン・バーニンガム／作
長田 弘／訳
はるぶ出版

こんなベッドが
あったらいいな!



『マザー・グースのうた 第1集』

谷川 俊太郎／訳
堀内 誠一／イラストレーション
草思社

リズムのある訳詩と挿絵で
大人も子供も楽しめる。



『ぜつぱうの濁点』

原田 宗典／作 柚木 沙弥郎／絵
教育画劇

「ぜつぱう」についていた
「濁点」の旅。言葉の美しさを感じる
大人におすすめの一冊。



『せかいをみにいったアヒル』

マーガレット・ワイス・ブラウン／作
イーラ／写真 ふしみ みさを／訳
徳間書店

モノクロの写真に物語のつ
いた動物の愛らしさがにじみ
出る一冊。



『なつのおうさま』

薫くみこ／作 ささめや ゆき／絵
ポプラ社

ひと夏の友情。ラストには
じーんと来る。

